

令和4年度 「主体的・対話的で深い学び」を 推進する経営戦略と、その検証

学校は失敗するところ！ 教室は間違えるところ！ 授業は子供が主人公！ 誰一人取り残さない！
子供の成長を教育活動のど真ん中におく！
One for all. All for one. チーム拝二小！

- I 豊かな体験
- II 確かな学力の定着と伸長
- III 豊かな人間性の育成
- IV 健やかな体の育成と体力向上



令和5年3月

令和4年度 昭島市立拝島第二小学校

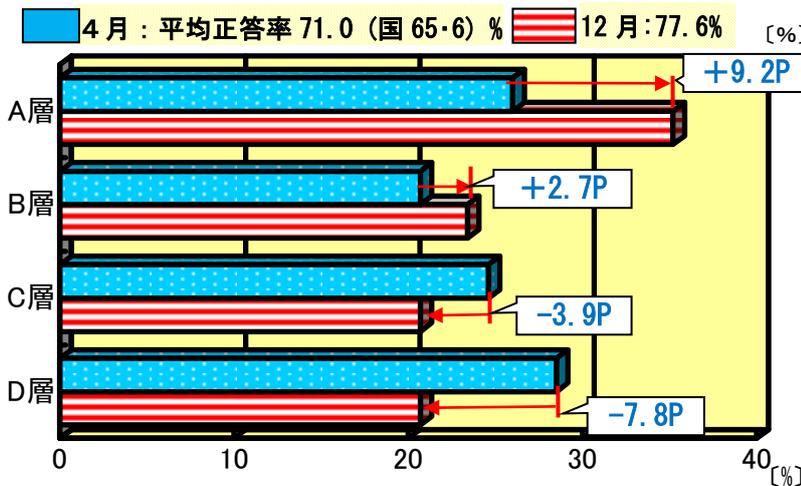
校長 小瀬 和彦

Ⅱ 学力向上施策～確かな学力の定着と伸長～と、その検証結果

- 1 「主体的・対話的で深い学び」の授業を実現するため、基本的指導過程である「挿二小授業カスタム ver4」に基づいた授業展開を図る。
- 2 教職員一人当たり学期2回以上の授業観察を行い、授業記録に基づき指導・助言を行い、授業改善のPDCAサイクル化を図る。
- 3 新型コロナウイルス完全防止策の徹底及び言語環境・ユニバーサルデザインに基づいて教室環境を整備し、学習意欲を喚起する。
- 4 総合的な学習の時間とSDGsとの関連を図り、探究的な学習過程の中で問題解決的な学習を展開する。
- 5 朝学習及び国語科学習で「朝読書」、「10チャレ」を意図的・計画的に実施する。
- 6 国の学力調査問題（R4年度）を活用し、プレテスト（4月実施）とポストテスト（12月実施）を実施し、「1～5の学力向上施策」の効果検証を図る。

仮説1 上記の「1～6=学力向上施策」の意図的・効果的な実施により、特に、習熟の早いA層の割合を増加・習熟のやや遅い・遅いCD層の割合を減少させることにより、学力の定着と伸長を図る。〈習熟の速いA層：「よくできる」、習熟のやや速いB層：「できる」、習熟のやや遅いC層：「もう少し」、習熟の遅いD層：「努力を要する」〉

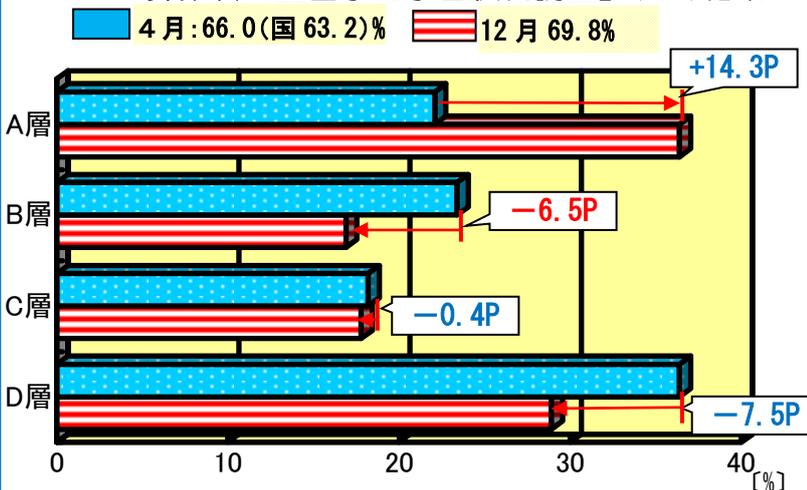
国語科「全国学力学習状況調査」(R4)結果



習熟の早いA層が 9.2 ポイント (以下「P」と記す。)増加し、習熟のやや遅い・遅いCD層が 11.7P 減少していることから、学力の定着と伸長が図られていることが分かる。

現在、各教科等の授業・朝学習において「①題材の設定 (→情報の収集→内容の検討) ②構成の検討 (構成案作成→伝え合い→検討→構成の確定) ③考えの形成・記述 1 (構成に即して考えを記述(下書き)→伝え合い→検討) ④考えの形成・記述 2 (説得力のある文章(理由・根拠)→伝え合い→検討) ⑤推敲 (伝え合い→推敲) ⑥共有」のステップで学習を進めている。

算数科「全国学力学習状況調査」(R4)結果



習熟の早いA層が 14.3P 増加し、習熟の遅いD層が、それぞれ 7.5P 減少していることから、学力の定着と伸長が図られていることが分かる。

現在、単位量当たり大きさ、基準量・比較量・割合の意味理解を大切に指導している。また、「実験結果を表などに整理し、事実(条件と結果)と、その解釈(結果から考えられること)の両方を整理し説明する」場面を意図的・計画的に設定している。授業では、導入時に「見通し(見積り、仮説、予想(理由))」をもたせること、終末時に「振り返り」をさせる指導をしている。

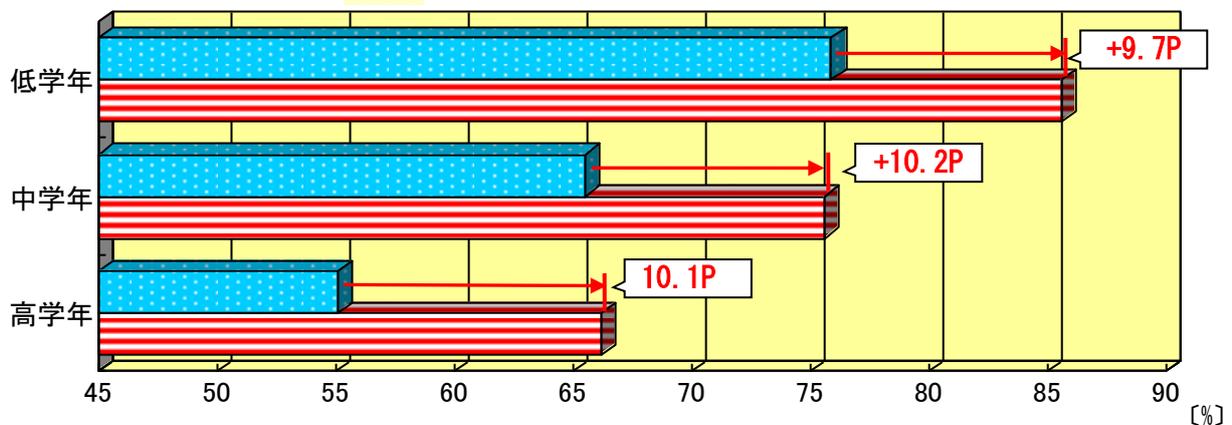
Ⅲ 豊かな心（人間力）の育成施策～心のケア・充実～と、検証結果

- 1 「子供のストレスチェック表」に基づく児童観察・コミュニケーションタイム（人間関係づくり等）・「SOS の出し方に関する教育」を実施する。
- 2 「親切・思いやり」、「相互理解・寛容」、「公正、公平、社会正義」、「生命の尊重」等の内容項目に重点をおいた指導と、道徳科の授業改善のPDCA サイクル化を図る。
- 3 「昭島市民科（生活科・総合的な学習の時間）において、各教科及びSDGsとの関連（クロスカリキュラム）を明確にしたカリキュラム・マネジメントを実施する。
- 4 児童の主体的な委員会・クラブ活動、立会演説会及び児童会役員選挙活動の推進を図る。
- 5 「拝二小学級カスタンド Ver. 2」に基づき、5月・7月・10月・2月に学級力（10項目）を自己評価し、学級での分析を通して、協働で課題を明らかにし、解決策について話し合い、計画・共通実践・評価・改善というPDCA サイクル化を図る。

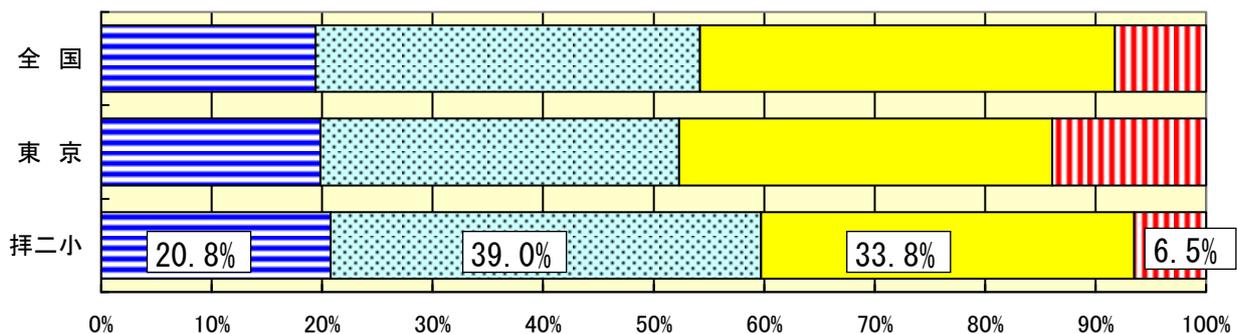
仮説2 上記の心のケア・充実施策「1～5」の意図的・計画的な実施により、児童一人一人及び学級の間力力の向上を図る。

〈「友達の心を傷付けることを言ったり、からかったりしない学級です。」という質問に「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合〉

5月 2月 R4.5月 65.4% ⇒ R5.2月 75.8% +10.4P



〈「地域や社会をよくするために、何をすべきか考えたことがありますか」という質問に対して「 当てはまる、 どちらかといえば当てはまる、 どちらかといえば当てはまらない、 当てはまらない」と回答した児童の割合〉



IV 健康の増進・体力向上施策と、検証結果

- 1 昨年の体力・運動能力調査の結果に基づく体力向上策を教育活動に位置付ける。
- 2 新たな教育活動を創造し、(児童会・実行委員会主催の「拝ニピック!」)実施する。
- 3 休み時間(遊び)を効果的に活用した体力向上策を実施する。
- 4 始業前、毎朝のコオーディネーショントレーニング及びラジオ体操を実施する。
- 5 「拝ニ小版授業スタンダード体育編」及びコオーディネーショントレーニングについてOJT及び、夏季休業中に改めて共通理解を図り、共通実践を行う。
- 6 国の体力調査(R4年度)を活用し、プレテスト(6月実施)とポストテスト(12月実施)を実施し、「1～5の体力向上施策」の効果検証を図る。

仮説3 上記の健康の増進・体力向上施策「1～6」の意図的・計画的な実施により、健康の保持増進及び体力の向上を図る。(詳細はホームページをご覧ください。)

I 全国体力・運動能力調査(R4)の結果

春：6月実施 秋：11月実施 **アンダーライン：春より伸びた記録** **斜体：過去3年最高記録**

男子	1年				4年				6年			
	測定年	R2	R3	R4春	R4秋	R2	R3	R4春	R4秋	R2	R3	R4春
握力	<i>8.5</i>	8.1	8.0	8.4	<i>14.6</i>	14.1	13.7	14.6	20.5	19.0	<i>20.6</i>	19.7
上体起こし	10.4	<i>11.0</i>	<i>11.0</i>	10.7	18.8	<i>19.4</i>	<i>19.4</i>	19.2	19.7	23.9	22.5	25.3
長座体前屈	25.6	23.0	25.7	26.0	27.9	36.9	34.5	37.0	34.3	35.2	41.7	43.2
反復横跳び	25.0	29.6	28.7	31.4	34.1	40.5	38.5	41.9	42.2	48.5	40.8	48.1
20mシャトルラン	16.6	16.0	23.3	24.0	49.2	42.7	53.2	52.3	49.2	62.9	65.4	69.0
50m走	11.9	<i>11.3</i>	12.1	11.3	9.6	9.2	9.7	9.8	9.0	8.7	8.2	8.3
立ち幅跳び	113.2	122.4	121.6	119.4	149.7	150.0	153.3	155.0	165.7	170.3	179.3	177.7
ソフトボール投げ	7.5	7.0	8.5	9.2	18.1	17.0	17.3	18.3	23.5	22.9	24.9	25.4

女子	1年				4年				6年			
	測定年	R2	R3	R4春	R4秋	R2	R3	R4春	R4秋	R2	R3	R4春
握力	8.3	<i>8.7</i>	7.6	8.0	13.1	13.8	14.4	14.7	<i>20.0</i>	19.9	14.4	14.7
上体起こし	12.4	9.5	7.8	10.3	15.8	18.8	20.2	21.3	18.0	19.8	20.2	21.3
長座体前屈	28.8	26.3	26.5	27.6	34.4	39.6	40.3	42.5	40.2	42.2	40.3	42.5
反復横跳び	24.9	27.6	26.8	30.4	30.6	40.1	37.4	43.1	39.8	43.9	41.8	46.3
20mシャトルラン	14.8	13.8	16.8	16.3	29.8	34.9	41.0	41.9	40.2	37.9	49.1	47.2
50m走	12.2	12.0	12.4	11.7	10.5	9.7	9.8	9.6	9.3	9.1	8.9	10.9
立ち幅跳び	111.1	107.4	110.9	114.8	138.9	145.0	151.8	155.4	160.1	160.1	171.8	171.9
ソフトボール投げ	5.3	4.9	4.3	5.5	10.3	11.7	12.5	13.3	14.8	16.0	17.1	18.9

調査結果(HP参照)から、東京都の記録(春)を比較すると1年生男女とも平均値が3項目下回ったが、6年生になると男女とも全ての項目(8)で東京都の平均値の記録を上回っている。1年生で入学し6年で卒業するまでに、体力向上が確実に図られていることが分かる。また、4年生男子では6項目、女子では全ての8項目、6年生男子では4項目、女子では5項目で過去最高の記録を出している。

春と秋の調査結果の比較からでは、春の実施(プレテスト全国実施)結果を踏まえた分析→分析に基づく改善プランの作成→改善されたそのプランについて共通理解・実践→11月にポストテストの検証→結果から、授業改善プランのPDCAサイクル化が効果的に機能したことが明らかになった。成果でもあり、今後より一層の充実を図っていく必要があるのは、次の3点である。

第1点は、昨年度から東京都「コオーディネーショントレーニング(CT)地域拠点校」としてCTの教員研修及び体育科の授業に意図的・計画的に位置付けたことである。

第2点は、「拝ニ授業カスタンダード体育編 Ver.2」の共通理解・共通実践である。

第3点は、始業前のラジオ体操・CTの実施、休み時間の効果的活用である。